ご相談は担当書記にご連絡ください
担当書記：工藤　真由　080-5699-0138
秋山　風夢　090-4246-1871
メール：kudou@doken-shibuya.jp
akiyama@doken-shibuya.jp

ほくぶの日々

発行：北部分会
編集：北部分会教宣部
住所：渋谷区幡ヶ谷2-18-6
電話：03-6304-2315

北部分会ライン
上記を登録すると北部のイベント等のお知らせや必要事項の掲示、北部組合員の要望の書き込みができます。

日本母親大会2025のポスターに掲載の力強いイラストより

2025年 第70回 in東京 日本母親大会

生命（いのち）を生みだす母親は　生命を育て　生命を守ることをのぞみます

母親運動のはじまり

1954年3月１日アメリカがビキニ環礁で水爆実験を行い、平塚らいてうほか5名は全世界にむけて（国際民婦連と各国の団体へ）「原水爆禁止のための訴え」を送りました。

母親・女性の願いは世界共通

「女性の憲法年連絡会」「国際婦人年連絡会」など日本中、世界中の母親・女性は手をつなぎ、みんなのパワーを集めて“平和・人権・平等”の新しい時代をきりひらいています。

第１回日本母親大会　東京・豊島公会堂　1955年　（日本母親大会ＨＰより）

床に座って勉強会は初めて

【分会教宣部　小泉　淳子】

第70回日本母親大会が９月28日、29日の２日間に渡り東京で開催されました。

70年間の歴史もアメリカの水爆実験により、ビキニ環礁で日本のまぐろ漁船第五福竜丸が被災しました。

その後の調査で千隻近い漁船が被災したことが判明して、広島、長崎につぐ３度目の被爆に母親達は怒り、平塚らいてうさんら６人は全世界に向け「原水爆禁止のための訴え」を送り、１９５５年スイスのローザンヌで世界母親大会の開催が決まりました。

それに先立ち６月第１回日本母親大会が東京で開かれ２０００人の女性が集まり、河崎なつさんを団長に14人の代表を世界大会に送り出しました。

現在日本全国に広がり世界平和の為に力を尽くしています。

《１日目》分科会が日本教育会館、全国教育文化会館で17のテーマに分かれ、助言者のお話がありました。

見学分科会は３ヶ所。バスで移動しての勉強会です。

私と須田さんは社会保障のお話に行きましたが、人気のため席がいっぱい。椅子が足りないので壁際の床に座ってお話を聞くことになりました。

右；小泉さん　左：須田さん

『貧困循環　ポデティ・サイクル』

労働者が生涯に３回貧困に陥る危険性があることを発見したと、１回目は労働者の子供として、２回目は子供を教育している親として、３回目は仕事から引退した高齢者として貧困を経験した話でした。

国によって制度に大きな違いもありますが生活しやすく安心出来る制度になって欲しいと願うばかりです。

《２日目》全体会は東京国際フォーラムのホールＡで行われました。

日本全国から現地参加、オンライン併用で開催。

『戦後80年と不戦の決意』

講師　布施祐仁さん（フリージャーナリスト）

日本とアジアを再び戦場にしない為に各国の平和運動に協力して核兵器の無い世界を臨む、瀬戸際で引き返せる勇気を持ち、全ての核兵器を無くす事を信じる事が大切で「世界中の人と友達になって下さい。真実を突き止めて勇気を持って行動して子供も育てて下さい」とお話して下さいました。

相手と信頼関係を持ち、話し合う事が大切。

一人の百歩より百人の一歩を大切に力を合わせて前進あるのみと感じました。

この度の大会も分科会、全体会、オンラインの参加の方を合わせると一万三千人の参加者となりました。

生命を生み出す母親は生命を育て生命を守ることを共に望みます。

全国から集まって下さった方々に感謝申し上げます。

⇒dokensib@green.ocn.ne.jp